



禮部  
卷之九





西田李英

西田文庫

佐藤屋のむし

其の序

いふにまらぬのち師我里れ  
まりく居ととえく習のほ葉れ  
かきかきとて習まるとまら  
流いぬおのたとまらとまら  
まらまらとて習まるとまら







# 鳥亭



鳥亭法未舎

柳子老人

鳥亭の法未舎に  
柳子老人の  
筆で書かれた  
鳥亭の法未舎  
の法未舎に  
柳子老人の  
筆で書かれた  
鳥亭の法未舎  
の法未舎に  
柳子老人の  
筆で書かれた







追善長歌行

追善長歌行

追善の心よ

十七回を此牌をよ

青方坊

水たらしは

十七年此

追善の心よ

あや



心持てはるるの徳

心持てはるるの徳

心持てはるるの徳

心持てはるるの徳

心持てはるるの徳

心持てはるるの徳

心持てはるるの徳

心持てはるるの徳

入心ようきふりしるるを可

入心ようきふりしるるを可

入心ようきふりしるるを可

入心ようきふりしるるを可

入心ようきふりしるるを可

入心ようきふりしるるを可

入心ようきふりしるるを可

入心ようきふりしるるを可

文景

景巴

景巴

景巴

景巴

景巴

景巴

景巴

巴

景

巴

景

巴

景

巴

景







差つれをけりしやうの世に

紫

歳一しちふよはるの

巴

名目よ、形のお話さうね

仙

口之味、縁よきくおしり好

阿

厚<sup>ク</sup>よりしよのけいひのを

阿

思ひくねく、着、縁は

厚

片紙よ、紙のりく、おれき

岐

梅ありて、ちやちよ

杯

くくく、よ、牛、ね、あ、

巴

し、あ、ま、茶、師、も、う、

紫

縁、り、よ、あ、し、る、

巴

あ、ん、も、も、も、も、

巴



拈香

龍舟行

五魂のちちりるれにさぬるま

呂杯

梅のよ白比流も給々

紫鼓

常月とふらふらにの涼をさく

桔仙

ころもれあふまよはれ母のあふ

文紫

節のさるよ月とふらふれにさぬるま

源阿

稽れ柳のさや一まかほく

流巴

まののりもまをさくさくしてあり

聖凡

入をさくまふらふらにの涼をさく

青友

あまれあれよはるもさくさくあり

波

よまをれも流も流てはつと

杯

えいふらて稽れまをさくさくあり

紫

まをれまの流もさくさくあり

仙







眞茶 寄仙一折

大紫

茶の結は厚くねそゆるたよふた

茶よもくくく次陸も茶 流巴

息よ二日あつたれとて無心く 茶政

心無くは焚きとて風名 源阿

遠よりおく 佐又は横目後 枯仙

樽あけくくく市もくくく 侍 聖此

海くくくくくくくくくくくくく 月之乳 善友

廉のちりるもえ縁は情 員村

横くくくくくくくくくくくくく 巴

御子の尺波もちりよふと神 繁

と極も無くくくくくくくくくくく 阿

千尋の海くくくくくくくくくく 波



今讀此あれし十あよし一合せ

舞の経氣よしのりて

穢もほも拂よりのの吟

梅もあんともあ

とあうし一陸此目うり時

語ううしあれあ

此

仙

杯

友

巴

紫

# 倍花

百韵首尾

深阿

幕よんぬえよ花ん、おけり

谷くま桶の筒伽し音け

まふよ餅の次あし渡あれ

あけしあれしを

望此

青夏

总破



追討よ〜〜とぬのなま〜れ  
文繁

路よ〜〜や〜〜城よ本原  
若仙

まゝの月よ〜〜まゝも〜記  
辰巴

氣のこよ〜〜の〜〜人の髪  
呂杯

踊〜あ〜ぬお〜う〜れ〜先  
比阿

舞よ〜〜ぬは〜後の〜種  
阿波

夕陽の落よ〜〜るは〜降〜り〜り  
波

〜〜よ〜〜るよ〜〜け〜〜の〜〜時  
夏

え解よ〜〜な〜〜ま〜〜か小体と  
仙

や〜〜秋〜〜か〜〜るは〜西目  
繁

文操のよよお漢れま〜と  
杆

け〜〜よ〜〜るよ〜〜の〜〜路  
巴







